早川平会計事務所通信

10月号 VOL. 155

税理士法人早川・平会計

〒101-0048

控除

35万円となります。

しかし、

寡婦控除につ

所 除

制

たため

所得金額が50

0

控除が適用されます。また従来は27万円だった寡夫

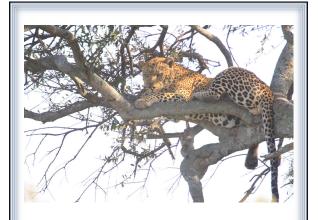
えると27万円の寡婦控除の適用がなくなります

東京都千代田区神田司町2-10安和司町ビル2階

電話:03-3254-2171 FAX:03-3254-2174

http://www.ht-tax.com

mail: y.taira@ht-tax.com



脳は、理解なしの丸暗記や感動なしの丸暗記が苦手だそうです。記憶力は年齢と共に低下しますが、感動を込めて覚えることが記憶力を高めるコツのような気もします。「感動は脳を若返らせる」といわれます。また「感動しなくなると脳が老け込む」という医者もいます。感動を忘れなければ脳に定年はなさそうですね。

500万円以下」の未婚のひとり親は、 けられません。 ただし住民票に事実 子以外の扶養親族を持つひとり親控除に該当しない の子を持つ「所得金額が500万円以下」のひとり親に とり 見直しが行われ、2020年分の年末調整から全ての 「500万円以下の所得制限」 いて「ひとり親控除 親に適用されます。 生計を同じとする「総所得金額が48万円以 従前の控除額27万円が適用されま 総括すると、 介婚の (35万円)」が適用され 具体的には婚姻暦や性別にか 記載がある場合には控除 男女を問わず が設けられまし 新たに35万円 「所得金

ました。これらを公平にすべくとり親とでは控除額に差がありまた男性のひとり親と女性のひって控除が異なっていました。

未婚の場合は婚姻暦の有無によ

【未婚のひとり親控除の見直しについて】

【世界の人口増加による食糧難を解決する策とは?】

次世代の食材として「昆虫食」が注目を浴びています。グロテスクな見た目に対する抵抗感は強いですが、タンパク質やミネラルなど栄養価が高く、欧米では健康食品として認知されているとか。人口増加による世界の食糧難を解決する策のひとつとしても、食肉の家畜と比較すると環境負荷が低く、安定供給が可能な昆虫食に期待が高まっています。日本ではバッタの養殖やコオロギを使った調味料などの開発に多くの企業が参入し、食料源としての可能性を探っています。



今月のあなたの運勢 鑑定∶妙慎

〇型

運勢の変化の影響を受けて動揺しやすいものの、現状維持に努めれば月の後半から吉運が

アップするでしょう。

運気が徐々に回復に向 かうためチャンスとみ たら一気に取り掛かり ましょう。何事も粘り 強く進めばさらに吉!

Β型

レジャー運が良好で趣味の時間が増えそうです。生活のリズムを乱さぬようメリハリをつけて楽しみましょう。

多忙な1カ月となりそうです。悩みや迷いがあれば目上の知人や友達に相談すると良い解決策が見つかります。

AB型

【地に足のついた商売】

江戸時代の城下町では草履 (ぞうり) が普段履きでした。

一方、遠路を旅するときは、普段の草履よりも丈夫な履き物を使っていたそうです。それは今でいう靴下と草履を合わせたようなもので、山道を歩くときはさらに虫除けがついたものを用意する



旅人もいたようです。昔の旅がほとんど徒歩だったことを思えば、旅には旅用の履き物を用意したのでしょう。 それが転じて「状況によって履き物(靴)を替えられる人」とは、つまり「臨機応変な対応ができる人」を指すようになったという説があります。

「おしゃれは足元から」とか「靴にこだわる人こそ本当のおしゃ れ」といった俗言もこの説に由来するものかもしれません。 たしかに「足元」は、全体に占める分量が少ない割には人目を引 く部分です。足元にはその人のセンスが凝縮されるのでしょうか。 また禅宗には「脚下照顧(きゃっかしょうこ)」という言葉があり ます。その意味は「足元に気を付けよ」。自己反省、または日常生 活の直視を促す語だそうです。「足元」は、実にさまざまな意味を 含み持つ言葉です。「立っている足の下」という意味はもちろん、 「縁の下や土台」「履き物」も足元といいます。さらには「身辺」 「足取り」「弱点」「足がかり」「足場」など今、置かれている状況 も「足元」という言葉で比喩的に表現されます。「あの人は地に足 がついた人だ」とか「人の足元を見る」などの言い回しがありま すが、足元は無言のうちに「人となり」も物語っているようです。 どんなに高価な靴を履いていても、その靴が泥やホコリで汚れて いては、靴どころか本人の品格まで台無しです。逆に、多少くた びれた靴でも手入れが行き届いていれば、愛用品を大事にする心 持ちが好感を呼ぶでしょう。足元には本質が見え隠れします。

人の足元を見た商売はなかなかうまくいきません。日常を直視して、変化をいとわず、状況によって履き物を替えながら足場を固めていく。明日、何が起こっても不思議ではない今の時代には、地に足のついた商売こそが王道ではないかと思います。



【ノースライト】

主人公の設計士が依頼者の希望 どおり渾身の力を込めて設計し た家。世間にも高く評価されたそ の家を訪れると、誰もお

らず一脚の木の椅子だけが置かれていた。一家ははっていた。一家はとって消えたのかって、 圧倒的な筆力で結まで一気に読ませる一冊です。

